

# JAMA Canada Report

A Newsletter on the Canadian Automotive industry

www.jama.ca

2011年冬 Vol.11, No4

## 2010年、生産と輸出は回復、販売はトラックが好調、乗用車が低迷

### 販売

2010年暦年の軽量自動車販売は、2009年の146万台から、12月末で6.6%増の約156万台と、わずかな回復を示した。軽量トラックがこの回復を牽引し、前年比18.9%増の84万8108台を販売し、市場シェアを54.5%と前年から6%伸ばした。一方、乗用車販売は、2010年、5.1%減の70万9013台となった。

日系自動車メーカーは、2010年、販売台数、市場シェアをともに落とした。日系メーカーを合計した軽量自動車販売は、2010年、前年から2万1000台以上下がり、3.9%減の53万1154台となった。日本車ブランドの乗用車販売は、33万446台と11.8%減少したが、軽量トラック販売は、前年を12.6%上回る20万708台となった。

さらに、北米製車両の販売は、34万8226台へと3.2%減少し、日本からの輸入車販売は、18万2928台へと5.4%の減少を見た。その結果、2010年、カナダで販売された日本車ブランド軽量自動車の65.6%が北米製、34.4%が日本製となった。日本車ブランド軽量自動車の市場シェアは、2009年の37.9%から、2010年には34.1%へと縮小した。

JAMA加盟各社の業績は、2010年、まちまちであった。スバル・カナダは成長をリードし、前年比20.7%増の2万7805台の

史上最高を記録した。トヨタ・カナダは、加盟各社間で販売台数トップを保持したが、販売台数は、2010年、17万1972台と16.2%減少した。マツダ・カナダと日産カナダは、2010年、一桁の販売成長を記録した(各6.8%、5.1%)一方、ホンダは、前年をわずかに0.8%上回る結果となった。

### 生産

カナダの軽量自動車生産は、2010年を通して堅調な回復を続け、総生産台数は、2009年の148万台から約40%跳ね上がり206万台となった。

ゼネラル・モーターズ(GM)は、トップを維持(CAMIを含めて52%増の52万9568台)し、クライスラーは、51.2%増の47万5382台を生産し、GMに近接した2位となった。トヨタ(TMMC)は、43.7%増の45万9049台で3位。フォードの生産は、34.7%増の32万608台、ホンダ(HCM)は、7.1%増の27万8272台となった。

カナダでの日系自動車メーカー総生産台数(ホンダとトヨタ)は、2010年末現在で、2009年から約15万8000台増の73万7321台と36.3%改善した。TMMCの生産は、2010年3月のウッドストック工場での第二交代開始により増加し、年間生産台数は2倍の15万台となり、1000人の工員の雇用増を生み出した。同時に、HCMは、2011年1月に第二工場での第二交代を開始し、アリストン工場に400人の工員を新たに加えた。

### 目次と主な内容

2010年、生産と輸出は回復、販売はトラックが好調、乗用車が低迷 .....	1
JAMA Canada、日加EPAに向けた共同研究を支援 .....	3
オタワとクイーンズパークでの2011年議会レセプション .....	3

## カナダへの自動車輸入(出荷)

	2010年1~12月	2009年1~12月	変化(%)
日本	196,279	176,418	11.3
米国・メキシコ	203,910	174,116	17.1
合計	400,189	350,534	-14.2

出所: JAMA, JAMA Canada

## カナダにおける自動車生産

	2010年1~12月	2009年1~12月	変化(%)
ホンダ (HCM)	278,272	259,796	7.1
トヨタ (TMMC)	459,049	319,548	43.7
合計	737,321	579,344	27.3

出所: JAMA Canada

## カナダからの自動車輸出

	2010年1~12月	2009年1~12月	変化(%)
ホンダ (HCM)	218,620	189,675	15.3
トヨタ (TMMC)	371,682	213,542	74.1
合計	590,302	403,217	46.4

出所: JAMA Canada

## 輸出

2009年には輸出が急減したが、2010年のホンダとトヨタからの軽量自動車輸出は、46.4%と大きく上昇した59万302台と、18万5000台以上の増加を見た。2010年1~12月のカナダの日系自動車メーカーの生産台数に対する輸出比率は80.1%で、前年の69.6%からの上昇を見たが、これは、2010年に米国の軽量自動車市場の需要回復が堅調であったことを示している。

ホンダからの輸出は、15.3%増の21万8620台であった一方、TMMCの軽量自動車輸出は、74.1%増の37万1682台となった。両社とも、この95%以上が、米国市場へ向けられた。両社合わせて2万8400台以上が、米国大陸以外の市場へと輸出された。

## カナダにおける企業別軽量自動車販売

企業	2010年1~12月			2009年1~12月			変化(%)			
	乗用車	トラック	合計	乗用車	トラック	合計	乗用車	トラック	合計	
ホンダ	87,476	53,594	141,070	97,158	42,848	140,006	-10.0	25.1	0.8	
	北米製	75,395	53,594	128,989	83,941	42,848	126,789	-10.2	25.1	1.7
	日本製	12,081	0	12,081	13,217	0	13,217	-8.6	0.0	-8.6
トヨタ	94,162	77,810	171,972	127,243	77,872	205,115	-26.0	-0.1	-16.2	
	北米製	70,526	69,059	139,585	92,339	65,121	157,460	-23.6	6.0	-11.4
	日本製	23,636	8,751	32,387	34,904	12,751	47,655	-32.3	-31.4	-32.0
マツダ	65,079	13,583	78,662	63,355	10,317	73,672	2.7	31.7	6.8	
	北米製	6,092	7,769	13,861	6,614	6,490	13,104	-7.9	19.7	5.8
	日本製	58,987	5,814	64,801	56,741	3,827	60,568	4.0	51.9	7.0
日産	55,693	27,320	83,013	56,354	22,663	79,017	-1.2	20.5	5.1	
	北米製*	46,579	7,259	53,838	49,023	5,214	54,237	-5.0	39.2	-0.7
	日本製	9,114	20,061	29,175	7,331	17,449	24,780	24.3	15.0	17.7
スズキ	6,131	2,997	9,128	8,084	4,219	12,303	-24.2	-29.0	-25.8	
	北米製	0	152	152	0	885	885	0.0	-82.8	-82.8
	日本製	6,131	2,845	8,976	8,084	3,334	11,418	-24.2	-14.7	-21.4
スバル	11,927	15,878	27,805	11,738	11,296	23,034	1.6	40.6	20.7	
	北米製	3,269	6,937	10,206	2,612	2,658	5,270	25.2	161.0	93.7
	日本製	8,658	8,941	17,599	9,126	8,638	17,764	-5.1	3.5	-0.9
三菱	9,978	9,526	19,504	10,711	9,075	19,786	-6.8	5.0	-1.4	
	北米製	1,213	382	1,595	1,265	545	1,810	-4.1	-29.9	-11.9
	日本製	8,765	9,144	17,909	9,446	8,530	17,976	-7.2	7.2	-0.4
合計	330,446	200,708	531,154	374,643	178,290	552,933	-11.8	12.6	-3.9	
	北米製	203,074	145,152	348,226	235,794	123,761	359,555	-13.9	17.3	-3.2
	日本製	127,372	55,556	182,928	138,849	54,529	193,378	-8.3	1.9	-5.4

\* 乗用車販売は、メキシコ製を含む。

出所: AIAMC, デロジエ・オートモーティブ・コンサルタンツ・インク

## 輸入

すべての国からカナダへ輸入された日本ブランド軽量自動車台数は、2010年、14.2%増の合計40万189台となった。日本からの輸入は、2010年、19万6279台へと11.3%上昇した一方、NAFTA(米国とメキシコの日系工場)からの輸入は、20万3910台と17.1%増加し、日本からの輸入台数を超えた。これは、北米内での現地化が引き続いていていることを示している。

1993年以来毎年、カナダは、日本ブランド車の純輸出国となっている。過去17年間で、日本、米国、メキシコからの輸入合計台数を250万台以上上回る自動車がカナダから輸出されてきた。さらに、2010年、日本から輸入された日本ブランド車台数の3倍がカナダから輸出された。

## JAMA Canada、日加EPAに向けた共同研究を支援

カナダ政府と日本政府は、2月、自由貿易交渉の可能性に向けて新たな共同研究を行う旨、発表した。

JAMA Canadaは、韓国と欧州連合との自由貿易協定から起こりうる影響を深く懸念してきた。したがって、日加の二国間貿易関係を拡大するこの重要な一步を歓迎する。韓国と欧州連合のみと二国間貿易協定を結べば、カナダ市場、とくに小型自動車セグメントで、深刻な競争上の不利益が生まれる。また、高度先進技術車の導入については、日本からの輸入車のみが輸入関税の対象になる。極度に競争的な市場において、全ての自動車メーカーが公平でバランスのとれた形で扱われる公平な競争の場が必要だ。加盟企業のうち3社が、1万1000人以上の工員を雇用する大規模な工場をカナダに持つことを考えればなおさらだ。

JAMA Canadaは、カナダ政府と日本政府が二国間の経済連携協定の交渉に向け新たな努力をすることを全面的に支援する。

「この共同研究を実施するという発表は、韓国と欧州連合の両者との自由貿易交渉の真只中において、カナダのJAMA Canada加盟各社にとって非常に歓迎すべき進展だ」と、JAMA Canadaのデイビッド・ウォーツ専務理事は語った。

「極度に競争の激しい市場では、全ての自動車メーカーが公平でバランスのとれた形で扱われる公平な競争の場が必要だ。とくにホンダ、トヨタ、日野という加盟企業のうち3社が、何千人

ものカナダ人を雇用する大規模の工場をカナダに持っていることを考えればなおさらだ」と、ウォーツ氏は付け加えた。

JAMA Canadaは、何年もの間、貿易の自由化と開かれた国境を強く求めてきた。特に、カナダの自動車産業が、現地のサプライチェーンやグローバルなサプライチェーンとの貿易・取引に大きく頼り続けているからだ。

1993年以来、カナダは、日本ブランド車の純輸出国となっている。昨年は、カナダ製の日本ブランド車の輸出は、日本からの輸入台数の3倍であった。カナダで販売される日本車の3台につき2台は現在、北米製であるが、それでも、カナダの消費者の多様な輸送ニーズに応えるためには日本からの自動車輸入が必要とされている。

カナダでの日系自動車産業による投資は、過去20年、大きく成長した。累積自動車製造投資額は、90億ドルを超えている。カナダでは現在、2万5000人が自動車・部品関連工場で、約3万9000人が全国1190件あるディーラーで、そして2000人が本社・地方事務所で雇用されている。

カナダと、カナダにとって4番目に大きな貿易パートナーである日本との貿易をさらに開放すれば、両国における将来の投資に利益となるばかりでなく、カナダの消費者や労働者が、長年の貿易パートナー間の自由貿易による利益をフルに享受し続けることができるようになる。

## オタワとクィーンズパークでの2011年議会レセプション

毎年、オタワの国会議員と、トロントにあるオンタリオ州議会の議員に参加していただくレセプションを開催することは、JAMA Canadaの重要な活動の一つだ。

1月末に、オタワの国会議事堂で第6回の年次レセプションを開催した。下院、上院、そしてさまざまな連邦政府省庁から約100名が参加し、「次世代車両」や、会員各社の2011年モデルイヤーの最新車両、そしてカナダにある日系自動車・自動車部品関連工場の最新マップの展示を見た。これら展示内容は、近々、JAMA Canadaのウェブサイト(www.jama.ca)で入手できる。

オタワのレセプションでは、石川薫大使、ピーター・ヴァン・ローン国際貿易大臣らの特別ゲストスピーカーが挨拶をした。ヴァン・ローン大臣の挨拶文は、この記事の終わりに掲載されている。

3月はじめ、JAMA Canada は、トロントの州議会議事堂で今年2番目の年次レセプションを開催した。オタワと同じ展示をしたこのイベントには、州議会議員、閣僚スタッフや州の役人、招待客など約70人が集まった。ここでは、マギンティ内閣で明らかに自動車産業を支持するサンドラ・プパテロ経済開発貿易大臣がゲストスピーカーとして出席した。

## ピーター・ヴァン・ローン大臣の挨拶 オタワにおけるJAMAレセプション 2011年1月31日(月)

こんばんわ。ご親切なご紹介ありがとうございました。出席させていただき光栄です。

自動車セクターは、カナダにとって日本との商業的なつながりの心臓部です。カナダ政府は、カナダと日本の商業的なパートナーシップを前進させるにあたりJAMA Canadaが重要な役割を果たされていることに感謝します。また、カナダ政府が特に雇用創出や成長に焦点を置く中、幅広い野心的な自由貿易アジェンダにいただいているご支援に感謝します。



挨拶するピーター・ヴァン・ローン国際貿易大臣



歓迎の言葉を述べる石川大使



(左から) 武田川JAMA Canada副会長、サンドラ・プパテロ経済開発貿易大臣、富原JAMA Canada会長



3月24日に催されたオンタリオ州議事堂内のJAMA Canadaレセプション

カナダ政府は、保護主義的な傾向は今日の経済回復への唯一最大の脅威であると信じます。自由貿易、投資、革新を可能にするパートナーシップは、長期にわたる持続可能な成長を生み出す上での鍵となると考えます。

自動車産業は、その一例です。多くの産業と同様に、自動車産業も、競争力を保つには、自由で開放された市場が必要です。自動車は、グローバルに生産された材料や製品を使って製造されます。世界中からの革新や技術を頼りにしています。

カナダに深く根ざしている日系企業が証明しているように、自動車産業は、オープンで透明な信頼できる投資環境で繁栄します。つまり、コスト、人材、税制、そして市場やサプライチェーンへの近さにおいて最大の価値を提供する環境です。カナダ政府は、これを理解しています。それ故、意欲的な自由貿易アジェンダを押し進めて、カナダの企業や労働者のために新しい市場を開き機会を作りだそうとしています。

政権をとって以来、現政府は、8カ国(コロンビア、ペルー、ジョーダン、パナマ、欧州自由貿易連合加盟国のアイスランド、ノルウエー、スイス、リヒテンシュタイン)と新しく自由貿易協定を結びました。さらに、現在その他50カ国と貿易交渉を続けています。カナダにとって第二に大きな貿易パートナーである欧州連合や、今日世界でもっとも急速に成長している経済であるインドも含めてです。

また、日本も自由貿易協定相手国としてカナダが照準をあてている国です。昨年6月に、そして11月のAPEC会議で訪日した際、あらゆる機会を使って、日本政府官僚やビジネスリーダーの皆さんにお会いして、これから先、より緊密な貿易・投資関係を築くことを呼びかけました。その中で日加間の経済連携協定についてもアピールしました。日本が他国との貿易交渉を始める用意ができたとき、カナダがその最初の国であるべきだと思います。両国にとって大きな可能性が開けます。

日本は、すでにカナダにとって2番目に大きな製品の貿易相手国であり、アジア最大の投資相手国でもあります。そして、JAMA Canadaが代表されているような多くの日本企業が、カナダのすばらしい事業環境をうまく活用しています。

- 主要先進国(G7)中、新規事業投資への合計税率が最低レベル。
- 同じく主要先進國中、債務と赤字は最低。
- IMFによると、G7諸國中、もっとも急速な経済成長が、将来も続くと予測されている。
- OECD諸國中、高等教育(高校以上の教育)機関を卒業した比率がもっとも高い、もっとも熟練した労働力。
- 先進諸國中、もっとも寛大な研究開発(R&D)優遇税制。
- 安全で、生活水準が高く、国民皆保険で、健全な教育制度があり、美しい自然環境をもつ、卓越したクオリティ・オブ・ライフ。

さらに、G20諸国で初めての製造業者にとっての関税フリーゾーンとしてカナダを位置づけるべく、輸入された製造材料、設備・器機の関税全てを撤廃するよう進めています。

日本との自由貿易協定は、両国の商業的なつながりにおいて、カナダが次のステップへと進む助けとなり、企業が両国の市場において新しい機会をさぐる動機となります。JAMA Canada加盟各社のような日本の投資企業が、北米での事業運営を強化する助けにもなるでしょう。そして、カナダの企業が日本で同様のことを果たす助けにもなります。

カナダの日系自動車産業界のリーダーとして、皆様は、両国の自由貿易の利点を訴える理想的な立場にいらっしゃいます。カナダで事業を行う利点について認識を高めるご努力を続けていただくようよろしくお願いいたします。

両国の自由貿易を実現するよう協力していこうではありませんか。カナダ国民や日本国民が求めている雇用や機会の創出を続けて行きましょう。